

つくしだより



平成30年4月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2018.4.15 第333号

家族会が今抱えている課題を考える

都連会長 眞壁 博美

家族会でいつも悩みとして挙げられるのが、会員の高齢化と、役員になり手のいないことです。

実際、都連の単会でも、長年会長をやられていた方が病气や亡くなったりされると、会が消滅してしまうことがあります。

なぜ、役員のなり手がなかなかいないのでしょうか？家族に病人をかかえていて時間的にも精神的にもゆとりがない人ももちろんいます。しかし会長はとても荷が重いと感じてしまう人が多いことが主な原因ではないかとも思っています。誰でも気軽に役員を引き受けられるようにするための工夫を考えてみました。

◆役員会の定例化・活性化

「立川麦の会」発足から、この4月で30年を迎えます。私は最初の12年間は、小学校の教師をやりながら、会長をやっていました。50歳で退職してから、家族会でまずやったことは、「役員会の定例化」でした。不思議なことに、定例化してから、会員数が急に増えてきたのが心に残っています。

毎月第一木曜日に10時から集ま

り、まずは会報の発送作業を役員みんなで行います（会計担当2人はその間、会計の仕事をします）。

役員も家庭では大変な事情をかかえている家族です。この発送作業の時間は、役員自身の愚痴や困りごとが相談できるチャンスでもあります。役員自身が役員会に出て楽しいと思える運営が大切です。みんなが遠慮無く対等に意見を言い合えるように心掛けています。

立川市や保健所、社協などの会議も、分担して出ています。定例会の司会・記録なども役員の中で交代していきます。そのように分担しても、仕事の負担の軽重はあります。でも、役員会で何でも話し合って決めていくので、精神的には気楽です。

◆会員にも仕事を気楽に頼む

役員だけに仕事を分担せず、会員にもお願いしています。例えば、定例会の会場は、市の公共施設を借りていますので、毎回、パソコンで申請し、抽選で仮予約ができれば会場に行つて本予約をしなければいけません。ですから、会場に近い会員さんに会場取りをお願いしています。

また、会報発送作業は、会報で一般の会員にも呼びかけていますが毎

回2〜3人の会員が手伝いに来てくれます。

当事者に就労意欲をもってもらうための就労支援活動として、年4回地域のお祭りに「うどん屋」を出店したり、年1回の「味噌作り」や「桑の実ジャム」づくり、春・秋の農業体験に参加した当事者には手当を出しています。家族会員のお手伝いを毎回募っているので、参加会員同士の交流も活発に行われます。準備が簡単でお勧めの交流活動としては、

例えば、昭和記念公園へのピクニックは、会報で集合日時と場所だけお知らせし、その時集まった人だけでピクニックをするという気楽なものです。出欠を取らない点では、「昼の井戸端会議」でも同じ。会場にお茶とお菓子を適当に用意して気楽なおしゃべりをします。「夜の懇親会」は、会場は会長宅を提供しますが、参加者は料理や酒を各自持ち寄り、時間を気にせず、人生を語るなどします。家族が楽しいと思えることを実践し、お互いに親しくなり、気楽に仕事を分担できる関係づくりをしています。

会員みんなが、一人一役みたいにできるといいですね。

メンタルヘルスの集い

『二重の不幸から百年』

わが国の精神医療のたどった道とこれから

理事 齋田 英夫

標記の講演会が3月3日10時から16時まで、有楽町の朝日ホールで行われました。当日、会場は全席満員に近い状態でした。

来賓等の挨拶の後、ドキュメンタリー映画「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の百年」という映画の予告編の上映がありました。この映画は、六月以降に各団体による自主上映方式による上映なので、多数の団体による上映を望んでいるとの事でした。

その後、午前中は元松沢病院医師で精神科医療史資料室を運営されている岡田靖雄さんと、愛知県立大学教授の橋本明さんの「日本の精神科医療における呉秀三先生の業績」というテーマの対談がありました。

呉秀三は、明治から大正時代に、東大教授や初代松沢病院院長をされていた方で、「日本の精神医学の草分け」といわれており、その門下生らによってわが国の精神医学が発達してきたと言える方です。彼は私宅監置の研究を進め、著書の中の「我が国の十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸の他に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」という有名な「二重の不幸」という文章を残しています。

午後はシンポジウムが行われました。シンポジウムで医療ルネッサンスを担当した読売新聞の記者は、日本の精神科医療は入院の偏重と薬物治療の偏重という二つの偏りがあると指摘しました。

帰りにギャラリにある私宅監置の写真を見ましたがそれは牢獄そのものでした。しかし、隔離病室で拘束されているという現状は、「この国に生まれたるの不幸」が解消されたと言えるのでしょうか？先の一節に続けて呉秀三は次のように述べています。「精神病者救済と保護は実に人道問題にして、我が国政府の目下の急務である。」と。

呉秀三がこう述べてから百年たちました。

精神障害者への医療費の助成（マル障）を含む平成30年度東京都予算案及び条例改正案が可決されました！

都連副会長 植松 和光

平成30年2月21日から始まった平成30年第1回都議会の最終日の3月29日の最終本会議において、精神障害者への医療費助成のための予算を含む平成30年度予算案が可決されました。また、精神障害者を対象にするための「心身障害者医療費の助成に関する条例の一部も改正されました。これにより長年私たち家族会を始めとする都民の皆様

マル障を精神障害者にも助成して欲しいという要望が実現することになりました。可決された内容は次のとおりです！

○対象者 精神障害者保健福祉手帳
1級所持者 約6千人

○実施時期 平成31年1月から

○実施内容 国民健康保健や健康保険などの各種医療保険の自己負担分から一部負担金を差し引いた額を助成。

ただし、入院時食事療養・生活療養標準負担額は助成対象外です。

〔参考〕平成29年3月31日現在の精神保健福祉手帳の所持者

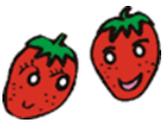
1級6116人 2級51797人
3級43086人

手帳所持者の声

（私は2級の手帳を持っていますが、医療費はともかかります。一日も早く2級所持者も対象になることを願っています。）

各家族会、関係事業所の皆様、これまでのご協力に感謝申し上げます。これから、2級3級所持者も対象にする活動を更に要望していきますよう。

都議会各会派の皆様、今回のマル障の可決本当に有難うございました。今後とも引き続きご支援ご協力をお願いいたします。





多摩ブロック会議の報告

都連理事補佐 大山 竹彦



3月3日(土) 13時半～16時まで、府中「ふれあい会館」において行われました。16家族会26名の参加となりました。

◆都連からの報告

①マル障活動について

都議会3月議会に出された平成30年度算原案には、平成31年1月より、精神障害者手帳1級所持者のみですが、医療費助成金が盛り込まれました。障害者福祉制度の格差は正にむけ、大きな一歩を踏み出せました。なお、現在行われている3月都議会で平成30年度予算案が採択されれば、実施することになります。

②五十周年記念式典・祝賀会について

133名の参加を頂いて、2月23日に中野サンプラザにて予定通り行われました。式典ではマル障実現でご協力いただいた都議会議員の方が多数参加してくださいました。祝賀会では、日本福祉教育専門学校の方の音楽が盛り上げて下さり、成功しました。

③評議員会は6月20日です。評議員会後の講演会については準備を進めています。

◆単会からの報告

①府中市梅の木会から、「シェルター事業に

ついて」報告がありました。(詳細は次の小澤理事の記事を参照してください)

②立川麦の会から立川市への陳情活動報告

立川市の地活センターが平成30年度から3か所から1か所になるという情報を得て立川麦の会として「精神障害者の包括的な相談支援体制に関する陳情」を立川市議会に提出し、陳情が採択されました。廃止となる地活センターとは別に、新たに1か所6月に知的・発達障害・精神に対応できる地活センターが開所します。

◆つくし会の会費問題について

次回のブロック会議で、理事会から具体案を提案して欲しいということになりました

シェルター事業発足について

都連理事 小澤 輝江

府中市梅の木会はこの度、平成三十年1月1日よりシェルター事業(一時的避難場所)を始めました。以前よりこの事業は運営して居りましたが、この度は本格的に梅の木会会員のみならず、多摩ブロック家族会会員の方にも利用していただけるように梅の木会で決定致しました。

日頃より家族相談をして感じますことは三障害の中で、精神の病気の家族の苦勞は並大抵の苦勞ではありません。相談する家族に寄り添い、一緒に涙することも

度々です。

家庭内暴力、急性症状等で自宅に対応出来ない場合、ほっとする場所があると本当に心も体も癒されます。シェルターで憩うことは人間の権利です。当事者に対して罪悪感を持つ必要はありません。シェルターを何度も利用し、当事者から距離を置くことこそ当然の親の権利です。子供が引きこもりがちでいる場合、親の方から離れることは必須条件です。

親の方は子供からの暴言、暴力に耐え切れず、精神的に病んでしまいます。そのために休息の場が必要なのです。それも安価な料金でなければなかなか泊れません。先日、シェルターに三泊三日お泊りになった方はビジネスホテルの一泊料金でおつりが来たと喜んで『こんな有難いことはない。』と笑みを浮かべて帰られました。

この様な事業は行政がやるべきが本来の筋ですが、これからも行政に強く働きかけねばならないと痛感します。

利用料金

宿泊、午後5時～午前9時 千五百円

日中、午前9時～午後5時 千円

無料駐車場有り

どうぞご家族の皆様の「ご平安を心よりご祈念申し上げます。



寄稿 大人だって泣きたい

都連理事 鬼頭 博子

北の大地に秋の気配を感じる頃、娘の入院先から帰京中の私はどうにか空席便をみつめて搭乗口へ。シーズン真つただ中のそこは旅行客でごった返して、手にするチケットは皆私よりも後発便だった。どうしてもその便に乗り遅れるわけにはいかない私は、無理と恥じを覚悟でチケットを見せながら可愛らしい女性に声をかけた。「すみませんが順番を先にしていただけますか？」気力も体力も極限状態の私にしたらその彼女にすがりしかなかった。「だめだよ時間守らないのがいけないんじゃないの？」可愛らしい彼女達の唇から流れ出る冷やかな言葉と、ひらひら揺れる数便後のチケット。途方に暮れる私に、一部始終を見ていた年配の婦人が憐みの表情を浮かべ、グラウンドスチュワーデスを指差した。

誰も悪くない、可愛い彼女達の言うことは正しい、なのにこれほど泣きたくなるのはなぜだろう。こみ上げる嗚咽をぐっとこらえ飛行機目指してひたすら走った。もしもそのとき優しくされていたらその場で泣き崩れていたかもしれない。泣かずに頑張れたのは彼女達の正しい言葉。彼女たちは、私の娘が遠い彼の地で精神科病院に緊急入院したなんて、思ってもみなかったらうか

講演会のお知らせ

☆5/12(土) 統合失調症の陰性症状と回復への道
講師: 大泉病院社会医療部長 山澤 涼子氏
会場: 新宿区立障害者福祉センター
主催: 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

☆5/18(金) みなさまのお困りごと解決
SSTの基本と応用で嬉しい関わり方が!
講師: 高森 信子氏 会場: 高円寺障害者交流館
予約不要 主催: 杉並家族会 ☎080-1004-1197

※参加申込み・お問合せは、主催者まで
お願いします。



☆ 賛助会費 ☆

おかげさまで30年度の賛助会費は、

個人 (一口2千円) ..	59000円
団体 (一口5千円) ..	100000円
病院 (一口1万円) ..	300000円
診療所 (一口5千円) ..	132000円
計231,000円となりました。	

心の病に悩む人たちの医療と福祉の改善を求める活動に取り組んでいる本会は、都内の家族会それぞれの会費収入の中から納められる年会費によって賄われており、この賛助会の収入は貴重な財源になっております。

つきましては、ぜひ本会の賛助会員になって頂きたく、何口でも結構でございますのでよろしくお願い申し上げます。

編集後記

東京つくし会50周年記念が盛況裏に終わり、改めてその中の一人として参加できたことを嬉しく思う。日本福祉教育専門学校の学生や先生たちも惜しみない協力をしてくれた。一緒に歌いながら熱くなるものを感じた。

福祉の道にそれぞれ進む方々が多いと思うが、当事者や家族の目線に立てる支援者として育ってもらいたいと願っている。

そんな感動も束の間、北海道で一人暮らしをしている母親が不整脈で意識をなくし入院した。母親と私は色々と確執があり決して仲は良くない。札幌に着いてそれから2時間かけて高速バスに揺られ、夕方病院で面会した。ペースメーカーを埋め込んだので身体は大丈夫と看護師が説明してくれた。でも私の顔を見るなり母親が「あんた、この前の夜私のところに来てお金をもっていったでしょ」と何回も言った。東京から今来たばかりの私に。「そんなことあるわけないだろう」と繰り返す私の顔を見て半信半疑のようだった。悲しくなった。(環境が変わり、ちょっとした手術をしたので術後のせん妄状態だったようであり今は気持ちを取り戻している)母親と別れたあと、何も食べていなかったので旅館近くの居酒屋で一杯飲んだ。やけにお酒が染みた。

都連理事 中住孝典

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。